

What's up,



OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分!)

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 61》2018年3月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～ 【豊後高田市／杵築市】



(豊後高田市)
天念寺川中不動



(豊後高田市)
真玉海岸



(杵築市)
守江湾の牡蠣



(杵築市)
杵築城下町

第3回アジアビジネス研究会を開催しました

「おおいた留学生ビジネスセンター」(通称SPARKLE)との共催により、平成29年度第3回大分県アジアビジネス研究会を、2月22日に実施しました。

第1部は、「留学生のチカラをビジネスに活かす取組」をテーマとして、(株)ワンチャー代表取締役岡垣太造氏と、三信産業(株)執行役員柴田紳也氏をお迎えしてのトークセッションでした。

参加者からは、「実際に留学生人材を社員として採用し、会社の事業に活用しているお二方のお話は、大変参考になった。」と好評でした。

また、第2部では、SPARKLEのインキュベーション施設に入居して、起業等を目指している留学生達がビジネスプランを発表しました。

大分県の地域資源である椎茸を活用した「山の上のしいたけスープ」を開発・販売している中国人留学生や、地域・顧客密着型の映像コンテンツ制作会社の起業を準備しているタイ人留学生、ナイジェリア農業の機械化のためのプランを持つ留学生らがプレゼンで熱く語り、参加者からは、「発表者のパッションを感じました。」等の感想がありました。

参加総数は43名で、アンケートの総評では「非常に気づきを得ることができた。継続開催して頂きたい。」という意見など、ほぼ全ての方が「大変良かった」「良かった」と満足いただくことができました。



県内国際交流担当者会議を開催しました

2月23日に、県内市町村の国際交流担当者を集めた会議を開催しました。この会議は、外国人留学生、在留外国人の増加や訪日観光客の急増、さらには来年県内で試合が行われるラグビーワールドカップの成功に向けた取組など、各市町村における国際政策の重要性が高まってきていることから、情報共有や意見交換を行うことを目的として開催したものです。

県、おおいた国際交流プラザ、大学コンソーシアムおおいたから事業の説明があった後、各市町村からも今年度や来年度の取組について情報提供をいただきました。市町村間で活発に質疑や情報共有が行われ、良い意見交換の場となりました。

今後も積極的に連携を図り、訪日観光客の受入れや多文化共生に向けた取組など、様々な施策を推進していきます。



ラグビーワールドカップ2019™開催都市特別サポーターのご紹介

ラグビーワールドカップ2019™開催都市特別サポーターに次の方々が就任しました！

- ・尾車部屋 嘉風関(佐伯市出身、最高位 東関脇、金星8個(現役最多タイ))
- ・DRUM TAO(竹田市を拠点に、世界24カ国で活動する「和太鼓」パフォーマー)
- ・福岡ソフトバンクホークス 内川聖一選手(大分市出身、MVP1回、首位打者 2回)

今後は、積極的なPRにご協力いただくこととなり、第一弾として、応援メッセージ動画をラグビーワールドカップ2019推進室ホームページ及びFacebookに掲載していますので、多くの方に視聴して頂きたいと思っております。



【ラグビーワールドカップ2019推進室】

世界温泉地サミットの開催準備を進めています！！

5月25日～27日に別府市で開催する「おんせん県おおいた世界温泉地サミット」の開催準備を進めており、日本国内はもとより、海外の16ヶ国17地域の温泉地のリーダーが参加し、以下のプログラムで開催される予定です。

《5月25日》

- ◆全国温泉地サミット(環境省主催)
- ◆世界温泉地サミット・全国温泉地サミット 合同レセプション

《5月26日》

- ◆基調講演：国連世界観光機関 ヨランダ・ペルドモ氏(スペイン)
- ◆事例発表
 - 観光分野
カンパニュ・ドゥ・ヴィシー社長 ジェローム・フリポ氏(フランス)
 - 医療・健康・美容分野
ホテル・プレジデント・テルメ社長 マッシモ・サビオン氏(イタリア)
 - エネルギー分野
ブルーラグーン・アイスランド社長 グリマー・サエムンゼン氏(アイスランド)
- ◆分科会
観光、医療・健康・美容、エネルギーの各分野の国内外の代表が議論を交わします。

《5月27日》

- ◆エクスカージョン
4つのコースを用意し、「日本一のおんせん県おおいた」の魅力を体感してもらいます。

なお、一般の皆様にもご参加いただける関連イベントとして、「世界温泉地観光物産展」と「ONSEN・ガストロノミーウォーキング(別府市及び中津市)」の開催を予定しておりますが、詳細については来月号でご紹介します。



【観光・地域振興課】

ハノイ(ベトナム)にて大分県のPRを行いました

2月3日～4日の2日間に渡り、ベトナムハノイ市のイオンモールLong Bien(ロンビエン)において開催されたTBSのイベントに大分県ブースを出展しました。同時期に、大分県を紹介するテレビ番組もベトナムで放送されました。

イオンモールLong Bien(ロンビエン)の大分県ブースでは、シンフロやプレミアムフロイデー、留学生制作の大分県CMなどの動画を流しました。

また、大分県の観光情報や、大分県への留学情報を掲載したパンフレット「Study in Oita」等によるPRを行いました。

テト(ベトナムの旧正月)のちょうど前の時期にあたり、買い物客で賑わうイオンモールの店内において、数多くのベトナムの方々に対して、大分県のPRをすることができました。

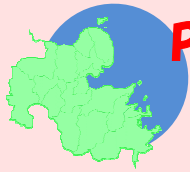


マレーシア経済ミッションに参加しました

大分銀行の主催するマレーシア経済ミッションが2月6日～10日に行われ、国際政策課長が参加しました。海外展開を行う意欲のある経営者の方々約20名と一緒にマレーシアのクアラルンプールを中心に、日系企業の商品展開など市場調査、JETROクアラルンプールでのブリーフィング、ハラル開発公社でのハラル認証に関する意見交換、進出日系企業の工場視察等を行いました。マレーシア政府としては世界中に約22億人いるムスリムの方へのハラルビジネスへの導入としてマレーシアへの企業誘致等に力をいれている印象を受けました。大分でもAPUと地元企業が連携してハラル醤油を開発しており、新たな観光・海外展開ビジネスなどに繋がるものと期待しています。

シンガポールではミッションとは別にクエアシンガポール事務所を訪問して、鍋岡次長(京都府派遣)、能村所長補佐(大分市派遣)からシンガポールの状況や各自自治体の取り組み等についてブリーフィングを受け、シンガポールにおける観光誘客などについて意見交換しました。その後、APU校友会シンガポールチャプターの代表、副代表の方ともチャプターの活動や今後の取り組みなどについて意見交換しました。





Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（2月）

News

【2月4日（日）】別府大分毎日マラソン

第67回別府大分毎日マラソンが4日、大分市高崎山うみたまご前から大分市営陸上競技場までの42・195キロで行われました。2020年東京五輪のマラソン代表選考会「グランドチャンピオンシップ（GC）」の出場権が懸かる本大会では、園田隼（黒崎播磨）が2時間9分34秒で日本勢最高の2位となり、GC出場権を獲得しました。

デスモンド・モクゴブ（南アフリカ）が2時間9分31秒で優勝し、3位に2時間10分12秒で大分東明高校出身の大塚祥平（九電工）が入りました。県勢1位に贈られる「池中杯」は2時間26分57秒の39位の吉田祐太郎（杵築速見消防組合）が受賞しました。

News

【2月14日（水）】春一番とクジラの訪れ

大分地方气象台が14日、県内を含む九州北部地方に「春一番」が吹いたと発表しました。

今年の冬は寒さが厳しかったですが、春一番の観測は昨年よりも2日早く、過去10年では2009年の2月13日に次いで2番目の早さとなりました。

また、同日、大分市神崎の田ノ浦ビーチ沖の別府湾でクジラが1頭泳いでいるのが発見されました。体長7～9メートルほどのザトウクジラと見られています。ここ数年は2～4月ごろ、餌を求めて別府湾に入ってきているとのことで、今年の観測は初めてです。

News

【2月15日（木）～】第35回天領日田おひなまつり

日田市に春の訪れを告げる「第35回天領日田おひなまつり」が15日、豆田・隈両地区などで始まりました。豪華絢爛（けんらん）なひな人形合わせて約5千体が各会場に展示され、見物客を楽しませています。期間は3月31日までの予定です。

恒例イベントである「青い目の人形パレード」が17日に開催され、着物姿の幼稚園児が洋人形2体と一緒に日田市中心部を練り歩きました。

その他にも、期間中には「豆田流しびな」や「春の新酒蔵だしまつり」等、様々なイベントが開催される予定です。



News

【2月20日（火）】六郷満山を代表する火祭り「修正鬼会」

国東半島の六郷満山を代表する火祭り「修正鬼会（しゅじょうおにえ）」が20日夜、国東市国東町の成仏寺で4年ぶりに開かれました。仏や高僧の化身とされる鬼がたいまつ（たいまつ）の火の粉を参拝客に振り落とし、無病息災を祈願しました。

修正鬼会は国指定重要無形民俗文化財。同市内は2寺院が隔年交代で開いてきましたが、前回（2016年）は主催の成仏寺や協力する地元住民等の高齢化などを理由に休止していました。運営態勢を見直し、節目の復活を遂げました。

22日夜には、豊後高田市長岩屋の天念寺でも修正鬼会がありました。

From our Reporters

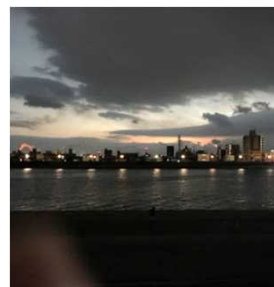


県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



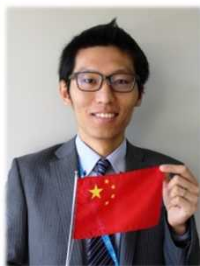
シェリダン・ミキシック
(Sheridan McKisick)

今年、新しい趣味を始めることにしました。ランニングです。小学校の時からランニングは苦手でしたが、今年5月に豊後高田で行われるふれあい大会で走りたいと思うので、できるだけ練習しなければなりません。一週間に3回ぐらい、早朝に大分川の周りにランニングに行きます。息づかいが荒くなることが多いし、あきらめたいときも多いし、翌日には足がいつも痛いですが、なんとなくだんだん楽しくなってきました。朝は寒くて、川の風がたまに激しいけど、ランニングをする朝にはいつも大分川の写真を撮って「練習の記憶」として保存しています。



金 眞雅
(Kim Jina)

由布院駅に降りたら、澄み切った青空と冠雪した由布岳が目に入ってきました。今回のWhat's up, OITA!多言語版の取材先は由布院です。まずは、ずっと前から食べたかった由布院バーガーを食べました。ジューシーなパテにベーコン、目玉焼き、レタス、トマトなど具が盛りだくさんで、ボリュームもあり、期待以上のおいしさでした。その後、九州由布院民芸村に入場し、中にある藍染め工房で藍染めを体験しました。先生の説明を聞きながら、どんな柄にするのか頭の中で想像するだけで結構時間がかかりました。輪ゴムできつく縛ったり、結んだりした布を染液の入っている甕に入れて染み込ませます。思いどおりの柄になっていないものもありましたが、それなりの個性溢れるハンカチができあがりました。



張 鵬
(Zhang Peng)

2017年は日中国交正常化45周年の年でしたが、2018年は日中友好条約締結40周年を迎えます。この重要な節目に、日中両国または各自治体の間で様々なイベントを通じてこれまでの友好交流を記念し、また将来に向けて両国のさらなる友好関係を築くために努力し合っています。

今年2月に大分市で恒例の新春祝賀会が大分県日中友好協会の主催で開催され、大分市長と在福岡中国総領事館領事をはじめ、APU立命館アジア太平洋大学孔子学院、大分中文学園などから大勢参加しました。中国のお正月である旧暦の新年を迎えるにあたり、「獅子舞」、中国語の歌「新年好」、また「少林拳」など参加者からいろいろと披露され、日本にいなながらも中国の新年の雰囲気が感じることができました。



セーラ・バックレイ
(Sarah Backley)

2月3日に「第32回本庁各部対抗スポーツ大会」に参加しました。より一般的には「県庁駅伝大会」と呼ばれている、毎年大分銀行ドームで行われるリレーマラソンです。昔は一つの駅から次の駅までのマラソンであったことから「駅伝」という名前になったそうです。

県庁の職員だけで75チームも登場していたことに、ものすごく驚きました。ラッキーなことに、私だけ2kmではなく、より優しい800mのコースでしたが、それにもかかわらず、高校の頃から真剣に走ったことがなかったので、本番は想像以上につらかったです。しかし、私の遅い走りにもかかわらず、私達のチームは18位になったので安心しました。なにはともあれ、チームの一環として参加することができ、とても嬉しかったです。



～編集後記～

県が「留学生ビジネスセンター」を設置してから一年ちょっとが経過しました。すでに起業している、あるいはこれから起業する留学生等のプレゼンを聞く機会がありました。彼らの事業計画は、アイデアが素晴らしいのはもちろん、中国、韓国、タイ、バングラディッシュ、ナイジェリアなど、母国と大分の架け橋になりたいという夢や希望にあふれています。折りにふれて皆さんにも紹介していきたいと思っておりますので、お目にかかれれば応援よろしく願います。

(国際政策課長 徳野 満)

話題提供のお願い!



県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください!
(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:小野
【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp